

宇都宮市立清原東小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の割合は、県平均よりも3.1ポイント高く、96.9%である。
- 「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合は、市平均よりも1.5ポイント高く、92.3%である。
- 「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した児童の割合は、市平均よりも高く、96.9%である。
- 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答した児童の割合は、市平均よりも高く、83.1%である。
- 「自分は家族の大切な一員だと思う」と回答した児童の割合は、市平均よりも高く、93.8%である。
- 「体育の学習が好き」と回答した児童の割合は、市平均よりも高く、89.2%である。
- 「国語、算数、社会の学習が、将来のために大切だと思う」と回答した児童の割合は、いずれも市平均よりも高く、98.5%であり、学習の必要性を感じている児童が多い。
- 「できるだけ自分一人の力で物事を解決しようとしている」と回答した児童の割合は、市平均よりも14.1%低く、70.8%である。自己解決力を高められるような活動を、学習や学校生活全般で工夫していく。
- 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」と回答した児童の割合は、市平均よりも6.1ポイント低く、41.5%である。物事に自信をもって取り組めるよう、自己肯定感を高めるような働きかけを随時していく。
- 「学校での役割や係の仕事に責任を持って取り組んでいる」と回答した児童の割合は、市平均よりも15.3ポイント低く、76.9%である。与えられた役割を責任をもって果たすことの大切さを伝え、継続的に指導していく。
- 「家で学校の授業の予習や復習をしている」と回答した児童の割合は、市平均よりも10ポイント以上低く、40%台である。また「家の人と学習について話をしている」と回答した児童の割合は、市平均よりも11.5ポイント低く、66.2%である。家庭に関心を高めてもらえるような情報を発信したり、宿題の内容や家庭学習の取り組み方の指導を工夫したりして、家庭と連携していく。
- 「見てはいけないサイトにつながらないようにしている」と回答した児童の割合は、市平均よりも5.9ポイント低く、36.9%である。情報モラルについての意識の高揚を図るとともに、家庭と連携していく。
- 「家の人は、ほめてもらいたいことをほめてくれる」と回答した児童の割合は、市平均よりも13.1ポイント低く、72.3%である。また「家でのきまりや約束を守っている」と回答した児童の割合は、市平均よりも9.2ポイント低く、80%である。家庭でのかかわりの大切さを啓発し、情報を発信していく。